

中山間地域における体験型観光推進協議会の設立について
 ～広島県北部の取り組みに着目して～
 山下雅彦（福山平成大学）

I. はじめに

広島県の北部、島根県との県境に位置する広島県双三郡の君田村、布野村、作木村（以下、三村）は、周囲の起伏の激しい中国山地の山々に囲まれた典型的な中山間地域である。

基幹産業は農林業が主体であり、主要作物は、水稲をはじめ、花卉、畜産、野菜等があげられる。とはいえ、中山間地域の例に漏れず、この三村地域も昭和30年～40年代に起こった都市圏への人口流失現象によって、過疎化、少子高齢化推進を図る上でも、こうした農林業の活性化を根底とした、地域経済活性化の原動力となる新たなテーマの創出が求められている。その中、多様化する生活の価値観、農山村における公益的機能の再評価が行われ、人々の農山村への回帰心も芽生えつつあり、昨今、農山村の生活に関心を向ける層に増加の兆候が見られる。

そのような時代の潮流を確実に捉え、この三村地域においても、地域住民にとってはその存在が当たり前のものとしての価値観しかなかった自然、文化、伝統芸能、農林畜産業といった地域資源の見直しを図り、維持、存続してだけでなく、それらを活用することで、経済や文化、教育、レジャー、レクリエーションなどの分野においての地域生活の充実化を目的とした地域づくりが重要な課題となってきた。

各村に立地する道の駅、川の駅を地域間交流と地域活性化の拠点として位置づけ、自然や文化、歴史をテーマにした体験型観光に取り組み、地域活性化を図ろうとしている。

そのような状況下、平成13年4月、広島県をプロジェクトリーダーとした、中山間地域を都市圏との交流と体験学習のフィールドとして「中国山地やまなみ大学」が開学した。この事業において、三村は各村の交流体験イベントをやまなみ大学の講座として登録し、広くPRを行い事業展開してきた結果、各村の交流人口は大幅に増加し、一応の成果をあげることはできたものと思われる。しかし、事業のほとんどは行政主導であるため、その活動が地域住民に根付くまでには至っておらず、交流人口の増加、定着化、さらには継続性も危惧されるなど様々な問題も露呈してきた。

今後は、地域住民が主体的にそれら交流事業に取り組み、三村連携のプロジェクトチームを結成することにより、地域資源の再評価が行われるだけでなく、それらを活用した体験交流プログラムを創出し、更なる交流人口の増加、定着化を促進し、地域における経済効果のアップを大前提とした地域の活性化を図ることを検討し始めた。

前述のように、やまなみ大学を中心としたこれまでの交流事業により、交流・体験が地域にもたらす活力となり得ることを認識する機会が地域住民にも提供され、人々の中には“地域づくりは地域住民の手で”という高い意識が芽生え始めている。併せて、都市住民からの農山村交流を求める声も高まり、三村地域においても都市住民に魅力ある体験プログラムの開発が、地域活性化の重要なキーワードであることが明らかになってきた。

とはいえ、人口わずか2,000人余りの各村において、それぞれが単独で事業展開をなすことは、経済的、地理的、人的において克服しがたい条件を抱えている現実が存在する。

そこで、①各村の体験プログラムの充実は勿論のこと、有機的に連携し都市住民との魅力ある継続的な交流事業の定着化を図る。

②三村地域の住民主体で事業を推進するプロジェクトを形成する。

③①のために、②で形成したプロジェクトメンバーの都市住民受け入れのための啓発、教育、育成を行う。

④今後の事業展開のために、広島都市圏をターゲットとしたマーケティングを行う。

⑤三村連携のPR、及び、情報発信ツールの制作。

以上の実現を目的とし、本事業に取り組むこととした。

II. 方法

【人材育成事業】

①協議会の立ち上げ

- ・ 協議会メンバーの決定
- ・ 協議会名称の決定

②ワークショップの開催

- ・ 体験プログラム創出のための、協議会メンバーによる勉強会

③テーマ型観光人材養成塾の開催

- ・ 体験プログラムインストラクターの技術習得
- ・ 体験プログラムコーディネーターとしての役割認識
- ・ 体験型観光人材養成塾参加者による三村モニターツアー

表 1-1. テーマ型観光人材養成塾のスケジュールと実施内容 1日目

時間	科目	内容
9:30~	受付開始	
10:00~10:15	開講のご挨拶	:若田村村長 藤原清隆氏によるご挨拶
10:15~10:30	オリエンテーション	:1泊2日の全行程の説明を簡単にいたします。
10:30~11:00	講師紹介・自己紹介	:講師の紹介及び、講師自己紹介を行います。 :参加者も自己紹介を行います。その場にいる皆さんお互いお互いの顔や名前を覚えるように、自己PRの名札を自分で作ります。
11:00~12:30	カリキュラム① 【体験型観光の概要】	:事例のVTRから“体験型観光”がどういったものか、その概要を認識します。 :“体験”に求められている理念”について学びます。 :“体験型観光”を実施する際の、マーケットとの関わり方について学びます。 :“体験型観光”を実施する上でのコーディネーターの役割を学びます。 :“体験型観光”を実施する上でのインストラクターの役割を学びます。 :上記、コーディネーター、インストラクターに求められる必要な条件を認識します。
12:30~13:30	昼食	
13:30~15:30	カリキュラム② 【プログラム進行の手順】	:好感度UPやイメージUPにつながるインストラクターの自己紹介法について :講座参加者に行わせる自己紹介法について :講座を盛り上げるポイント :講座の開始準備 :講座進行の具体的なノウハウ :参加者をリーダーにつなぐ講座の終え方
15:30~15:45	休憩	
15:45~16:30	カリキュラム②(続き)	:振り返りの会と総括 :成功のポイント
16:30~17:30	カリキュラム③ 【安全管理のポイント】	:健康管理と安全対策 :事故が起きた場合の対応法
17:30~18:30	入浴	:若田温泉でゆったりと一日の疲れを癒しましょう。
18:30~20:00	夕食会	:福北の山の幸をたっぷりと堪能しましょう。
20:00~21:00	夜学	:参加者の日々の体験談、苦労話などについて、講師を交えて自由にディスカッション

表1-2. テーマ型観光人材育成成熟のスケジュールと実施内容 2日目

時間	科目	内容
8:00~9:00	朝食・チェックアウト・集合	
9:30~11:00	●神之瀬峡に移動 カリキュラム④ 【体験プログラムⅠ】 「自然観察会」	・実践訓練 ・前日の講義内容をふまえて実践する ・インストラクターから学ぶ ・参加者の立場から学ぶ ※移動中、講師は視察を兼ねる。
11:30~12:30	●作木村「江の川カヌー公園」に移動 昼食	※移動中、講師は視察を兼ねる。
12:30~14:00	●作木村「高丸農園」に移動 カリキュラム⑤ 【体験プログラムⅡ】 「果物狩り体験」	・実践訓練 ・前日の講義内容をふまえて実践する ・インストラクターから学ぶ ・参加者の立場から学ぶ
14:00~15:00	●「君田温泉・森の泉」に戻る 閉講式	・参加者の感想の発表 ・アンケートの記入 ・総括 ※移動中、講師は視察を兼ねる。

【情報発信およびマーケティング事業】

- ①広島都市圏に向けての観光情報発信、三村のPR
 - ・ Hot Pepper 広島版 10月 (1/3 サイズ) にて広告掲載
- ②広島都市圏に向けての三村観光スポット認知度調査
 - ・ Hot Pepper 広島版 10月 (1/3 サイズ) にての誌上調査



三村の秋の収穫体験
今年買った冬服、
備北だったら一足先に
着れちゃいます。

三村体験ツアー
三村の秋の収穫体験
今年買った冬服、
備北だったら一足先に
着れちゃいます。

アンケートに答えてプレゼントを当てよう!

図1. Hot Pepper 広島版 10月の掲載内容

- ③三村連携観光パンフレットの制作

Ⅲ. 結果および考察

表2は、協議会メンバーから得た感想についてまとめたものである。これら感想から示唆されることは、インストラクターとしてのあり方を考え、地域資源を再認識することができた。また、民間主導で行うことによりメンバー同士の絆が増し積極的に都市との交流を図る機運が高まった。

表2. 協議会メンバーの感想

君田村	K氏	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のワークショップ、人材育成塾の成果を試す場となった。「モニターツアー」では、時間的余裕があまりなかった。参加者には車と歩くのとは風景の見え方も物の発見が全く違うことを学んでほしかった。 ・廃校になった小学校と温泉を拠点に周遊コースを完成させたい。 ・田舎らしさを追求したい。
	S氏	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに自然で遊ぶ楽しさを伝えたい。 ・この三村がレクリエーションゾーンとして輝けるようにしたい。
布野村	N氏	<ul style="list-style-type: none"> ・研修をとおして教えること、地域を活性化することについて勉強できた。 ・森林インストラクターの経験の重みを感じた。
	W氏	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、川の流れていっているような感覚で1年が終わった。しかし、1年を終えて、来年度の話がメンバーの口から出た。出たということは、今度は自分たちで川の流れを作っていくと、それぞれが考え始めた現われだと思ふ。 ・今後は、間伐材で造った横田小学校を拠点に、都会の子供を集めて山村留学に挑戦してみたい。布野村の伝統芸能、神楽や和太鼓で都会の方々との交流やふれあいを築いていきたい。宿泊やレジャーの部分では、しっかり三村連携を視野に入れて考えたい。
	H氏	<ul style="list-style-type: none"> ・三村連携を魅力的な形で実施したい。
	M氏	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した人材育成事業は大いに勉強になるので続けてほしい。
	A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクターとはどうあるべきかを継続して学びたい。
作木村	T氏	<ul style="list-style-type: none"> ・この年になって（78歳）皆さんとこんな素晴らしい活動に携われるとは思ってもみなかった。この地域を訪れる様々な方々と交流の機会がある度に「まだまだ頑張らないと」と自分を励ます切欠作りができた。 ・地域が元気になることは進んで学びたい。これまでの経験をインストラクターとして大いに伝えたい。
	A氏	<ul style="list-style-type: none"> ・志が同じ仲間巡りに巡り会えたことが何よりの宝である。 ・経営する梨園でも体験型の梨園に変えレジャーのメッカにしたい。

なお、大会当日には詳しい説明を行いたい。